



『隠岐神社社報』

御創建七十年特集号

発行者

隠岐神社社務所

〒684-0403

島根県隠岐郡海士町海士

電話 08514-2-0464

御創建七十年式年大祭の御礼

隠岐神社宮司 村尾 周

去る十月十八日に隠岐神社御創建七十年式年大祭を斎行致しましたところ、多くの方々にご参集を戴き、一連の祭典、奉祝行事を滞りなく執り行うことができました。先ずもって厚く御礼申し上げます。さて、今年は今上陛下の御即位二十年のお祝いすべき年でもあります。平成の御世もはや二十年。社会の中心となって活躍される方の世代交代とともに、人々の生活様式や価値観も変化しつつあると指摘されています。そのような中で、皇室と町民を繋ぐ隠岐神社においても、御祭神への崇敬の念が若い世代にしっかりと継承されていくよう、取り組みを進めて参りたいと考えております。

大祭に合せて奉納された薪能「隠岐院」は、保々見出身の敬神家 徳山詳直氏の並々ならぬご尽力によって実現しました。氏は、薪能の上演に先立ち、後鳥羽天皇への崇敬の念と郷土を愛する気持ちを披瀝され、御祭神に「恩返しをしたい」と述べられました。感銘を受けた方も多いことと存じます。

神社は地域の歴史や文化・伝統に深い関わりがあります。お祭りは、御祭神への感謝を現す機会であるとともに、神楽や舞の奉納、御旅の斎行を通じての氏子・崇敬者の交流の場でもあります。この度の隠岐神社式年大祭についても、祭典や薪能の企画・準備、御旅の神楽（東社中）やお神輿担ぎ（上方地区）等々、実に多くの方々のご協力によって為し終えることができました。

隠岐神社も、各地区の氏神様も、氏子・崇敬者の多くがお祭りに関わることで威光を保つことができると存じます。その威光がいつまでも続くよう、次代を担う若者たち、延いては子供たちにまで郷土を愛する気持ちを育むような活動を今後とも続けて参りたく存じます。

皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

隠岐神社の祭典、行事報告

十月 四日

月次祭

神札・守札御霊入の儀

十三日

子ども相撲大会

十五日

紙芝居「後鳥羽天皇さま」

十七日

上演会（慶照保育園）

式年大祭宵宮祭

薪能奉納

（隠岐神社御創建七十年、

後鳥羽天皇七百七十年

祭、海士町町制施行四十

周年記念事業）

十八日

式年大祭

神幸祭（御旅）

十一月 四日

月次祭

神札・守札御霊入の儀

八日

食の感謝祭

二十二日

紙芝居「後鳥羽天皇さま」

上演会（産業文化祭）

十二月 四日

月次祭

神札・守札御霊入の儀

平成二十二年

一月 一日午前零時 歳旦祭

新年神札・守札の頒布

新年祈禱、厄払い

厄年 男二五才、四二才

女一九才、三三才

（数え年）

隠岐神社神紋の紹介

歴代天皇の中でも文武両道に秀でられた後鳥羽天皇は、刀剣にたいへん興味を持ち、朝廷のために刀剣をつくる番鍛冶を設けたのをはじめ、御自も刀剣の作製に携わったとの言い伝えもあります。これにより刀剣に対する注目が高まり、日本刀の黄金期が到来したと評する声もあります。

皇室の菊の御紋は、後鳥羽天皇が御作の刀剣に刻ませた菊花の御印に起源があるとも言われており、隠岐神社が創建される際には、この菊花に手を加えた菊浮線(きくふせん・きくうきせん)が御神紋に定められました。

隠岐神社御創建七十年を祝して

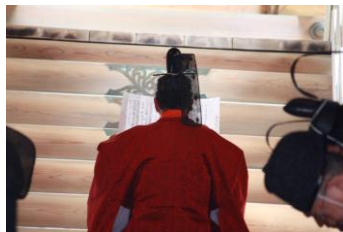
御創建七十年式年大祭実行委員長 石倉 郁郎
隠岐神社奉賛会 会長

隠岐神社が御創建七十年を迎えるにあたり、隠岐神社奉賛会を代表して一言御挨拶申し上げます。御承知のとおり、隠岐神社は、御祭神 後鳥羽天皇の御神徳を称え、皇室と海士町民をつなぐ歴史に感謝する場として、昭和十四年に御創建されました。先輩諸兄には、当時、御創建に協力され、後鳥羽天皇をお祀りするのに相応しい整然とした境内と真新しい御社殿の完成に感銘を受けた方も多かったことと存じます。ここに御創建七十年の佳節を迎えることができましたのも、町民の皆様の隠岐神社への篤い崇敬の念の賜物であり、この場を借りまして衷心より御礼申し上げます。

去る十月十八日には、皆様の格別の御協力の下、式年大祭と御旅を無事執り行うことができました。また、その前日には、宵宮祭に続いて海士町・文化庁・後鳥羽院顕彰事業実行委員会の主催による新能が奉納されました。一連の行事が厳粛に行われたこと、御祭神 後鳥羽天皇はさぞかしお喜びになったと存じます。

さて、私どもが島外で故郷について説明する際には、まず後鳥羽天皇と縁のある土地であることから話をはじめます。後鳥羽天皇と私どもが親しく接する大切な場所である隠岐神社を護持してゆくことは、私ども崇敬者の使命といえましょう。

御創建七十年のお祝いの年を機に、町民の愛郷心を一層育み、また町の将来を担う青少年を育成する場として、隠岐神社がさらなる活動を推進していくよう、奉賛会の一層の充実を図って参りたいと存じます。皆様の更なるご支援・ご協力を宜しくお願い申し上げます。



冷泉家「平成の歌会」



建七十年・後鳥羽天皇七十七年祭にある本年は、後鳥羽天皇に特別縁のある隠岐神社で開催されることになりました。藤原定家の末裔で和歌の名門、冷泉家の冷泉為人当主、同令夫人と艶やかな十二単を纏った読師（どくじ、読み手）らが古式ゆかしく、歌詠みを披露しました。和歌を愛し、隠岐に遷行された後も隠岐の情景を歌に読み込むことを楽しみとされた御祭神、後鳥羽天皇も、殊のほか、この歌会を楽しまれたことでしょう。

なお、隠岐神社が創建された時にも、和歌の披露式が行われました。その際に寄せられ



九月二十六日、隠岐神社において産経新聞社主催、海士町共催により、平安貴族の歌遊びを再現する「平成の歌会」が開かれました。この歌会は例年、京都の平安神宮で開かれています。が、神社創

平成二十一年 子供相撲大会



た、十三万の宮様の和歌などを綴った「献詠帖 さよちどり」は、海士町後鳥羽院資料館にて展示しています。是非お立ち寄り下さい。

十月十四日、隠岐神社相撲場において、子供相撲大会が開催されました。この大会は、例年、隠岐神社の秋の例祭に合せて行なわれるもので、海士町の子供会が主催し、町内各地区の子供会に所属

する小学生が参加します。晴天の中、好取り組みが連続し、子供達の歓声に境内はたいへん賑わいました。隠岐神社奉賛会では、青少年の健全育成の一環として、この大会に助成金を交付しています。また、開会式前には、申し出のあった子供会について、正式参拝を執り行いました。



紙芝居「後鳥羽天皇さま」の上演

隠岐神社では、職員と町民ボランティアの手で、紙芝居「後鳥羽天皇さま」を作成致しました。



これは、御創建七十年を機に、子供たちに天皇様と神社に親しみをもってもらうための活動の一環です。十月十五日、慶照保育園において、完成披露とさくら組を対象とした上演会を行いました。当日は、園関係者のほか、教育委員会や役場広報の方にも同席戴きました。

子供たちの反応を見ると、まだまだ紙芝居の内容に工夫が必要であると痛感致しました。今後皆様アイデアと技術を借りながら、神社やお祭り、御祭神についてわかりやすく伝える活動を研究して参ります。

なお、保育園のうめ組、さくら組の園児には、御旅の際、お神輿の先導をして戴きました。



薪能「隠岐院」奉納



十月十七日、式年大祭宵宮祭に続き、五十分より隠岐院薪能が奉納されました。演目は観世鏡之丞による蘭曲「隠岐院」、能「小鍛冶」、

野村万蔵による狂言「隠狸」。この薪能は、後鳥羽天皇に対する町民の厚い崇敬の念を背景に設立された後鳥羽院顕彰事業実行委員会と海士町並びに文化庁の主催、保々見出身で瓜生学園理事長 徳山詳直氏の協力により実現しました。海士町では初めての企画ということもあり、約七百名の方が観覧しました。

朝から雨風が強く実施が危ぶまれましたが、直前にはおさまり、月夜に映える社殿を背景に上演される薪能に、息を飲んだ方も多かったことでしょう。

「後鳥羽院 遠島百首かるた」

役場では、歴代天皇の中でも特に和歌の才に秀でておられた後鳥羽天皇の秀歌 遠島百首をカルタにした、「後鳥羽院 遠島百首かるた」を再版しました。後鳥羽天皇の御事蹟を伝えるとともに、天皇が殊のほか愛された和歌への関心を高める活動の一環です。

このカルタは限定四〇〇セットが販売されます。町の委託により、隠岐神社と後鳥羽院資料館でも取り扱っておりますので、お早めにお申込みください。



「後鳥羽院 遠島百首かるた」
頒布価格 一組 5,000 円

平成二十一年 食の感謝祭



十一月八日、食の感謝祭実行委員会主催の、二回目となる食の感謝祭が行なわれました。イベントの開会にあたる奉納の儀では、神前にお酒が主催者から、海士町のお

米・餅・鯛・さざえ・イカの一夜干し・干しナマコ・野菜・塩・水が生産者から、それぞれ供えられました。十月・十一月は秋祭り(新嘗祭・いなめさい)の季節で、全国のお社で自然の恵みに感謝するお祭りが行われます。

農業・漁業を地域再生の中核事業に据えようとする試みが全国各地であります。そのような中、御祭神の下に海士産の食べ物が集まり、たくさんの方がこれを口にすることは、故郷のありがたさを再発見することにもなります。

なお、隠岐神社では、地元産のお米の大切さを伝える小冊子「神社とお米」を訪れた方に配布しました。

